

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部スポーツマネジメント学科	武田 作郁	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

◆前期

企業と法 A
法学入門
スポーツ産業論
基礎ゼミナール I
研究ゼミナール I
研究ゼミナール 3
研究ゼミナール 5
プレインターンシップ
スポーツ科学実技 AI (人間文化学部)
スポーツ科学実技 AI (経営学科)
研究開発管理論特論 I

◆前期

企業と法 A
法学入門
スポーツ産業論
基礎ゼミナール I
研究ゼミナール I
研究ゼミナール 3
研究ゼミナール 5
プレインターンシップ
スポーツ科学実技 AI (人間文化学部)
スポーツ科学実技 AI (経営学科)
研究開発管理論特論 I

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

学生の主体的に考える力と課題解決能力の育成を第一に考えている。複雑に絡み合う社会課題に対応するために必要な要素だと考えている。とくに、既成概念に囚われない柔軟なものの方と、専門的な枠を越えた学際的(インターディシプリナリー)な視野を持って学問を探求し、学問領域と実社会における課題との橋渡しをしていくような人材の育成が肝要であると考えている。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

ゼミナールにおいては、固まった価値観をブレイクスルーする広い視野を獲得するために、「なぜ」「どうやって」を突き詰める姿勢を重視したコミュニケーションとディスカッション中心の授業を展開している。学生同士の議論はもちろん、教員対学生の問答(ソクラテスメソッド)を通して本質的な議論を積み重ね、クリティカルシンキングを身につけることを重視している。また、社会連携活動やボランティア活動など実社会との接点を

数多く設定し、普段の学習・研究の延長上に他大生や社会で活躍する方々との協働の機会を創出することで、より幅広く実践的な学びを得られるよう授業内容を構築している。

【成果】（その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど）

臆することなく主張し、主体的に考え行動することができる学生が増えてきた。議論の場においても、自らの経験やそれに基づいた小さな意見を大切にしながらも、周囲に目を配り、耳を傾け、一度飲み込んでから自らの意見を発することができるようになっており、コミュニケーション能力の向上がみられる。また、社会連携活動やボランティアへの参加を通して得られた社会とのつながり、人とのつながりを生かした、更なる社会活動への参加や就職活動への意欲など積極的な自主的活動が見られるようになった。

【目標】（今後どうするか）

学生のニーズと社会のニーズの双方を満たせるような、ジェネラリストとしての「自ら考え行動する人」を育成し続けたい。